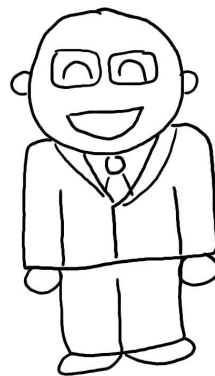


サタスタ通信

発行 兗城
編集 宮城

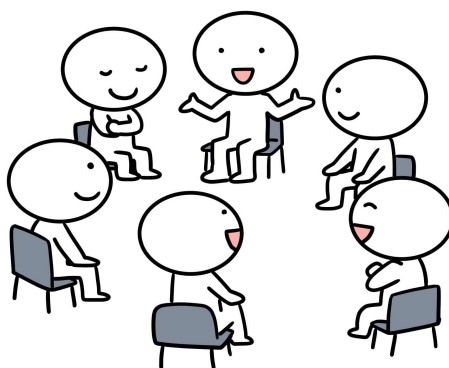


こんにちは。

《サタスタ東》運営責任者の宮城学です。

暑い日が続いています。いよいよ、夏が来ました。熱中症のニュースをよく見るようになりまして、皆さんも気を付けて下さい。

学校では【話し合う場面】が多くあります。行事に向けて何かを決める時や、課題を解決する方法を見つける為など、様々な目的を持って話し合いが行われます。



話し合う時に、技術が必要なことを知っていますか？

話し合う技術が使えるかどうかで、結果が正反対になります。

●技術があれば
【良い結果を出して、皆で協力できる】

●技術がなければ
【物事が進まずに、人間関係が悪くなる】

最近では、論破という言葉が流行っているようです。あれは、話し合う時にやるものではありません。喧嘩の時です。間違えないように、気を付けて下さい。

話し合う時に「はい論破」とやってしまうと、物事が進まずに人間関係を悪くしてしまいます。



話し合う技術

話し合う技術の《初級技》3つを紹介します。

①目的を共有する

【何を決めるのか】を、全員が理解してから話し合いを始めることが大切です。

「そんなの当たり前でしょよ？」と思っただ人もいるでしょう。しかし、これができていないことが多いです。自分だけ理解しているとか、数人だけ理解しているとか。

一人でも理解していないと、その人が全てを壊してしまう時があります。

②目的を掲示する

最初に共有した目的を、見えるところに掲示して下さい。参加者が、常に見続けていられる状態が理想です。

最初に目的を共有しても、時間が経つと意識から消えていくことが多いです。そうすると、①ができていない状態で話し合うことになり、そのまま話し合いを続けると、結果は悪くなります。

③より良い提案

誰かが出したアイデアの

不都合な部分を見つけた場合、「〇〇がダメだ」で終わってはいけません。「〇〇が不都合そうだから、△△はどうだろう」と、より良い提案をするように心掛けて下さい。

参加者全員がこの意識で話し合うことができれば、一人で考えるよりも優れた結論を導き出すことが可能です。

頭の良い人

話し合う技術を持っている人は、周囲から頭の良い人と言われることが多いです。

それは、皆の知恵を結集して、より良いアイデアを生み出すことができるからです。

あなたも習得してみませんか？

